

スクールカウンセリングに関する研究（教育相談・生徒指導領域）

最終更新日：2015年8月31日

教育心理学講座
教授
友清 由希子

キーワード

スクールカウンセリング, 生徒指導, 教育相談, バーンアウト, 教員研修

研究シーズの説明（私は、このような研究に取り組んでいます。）

今までに参加した研究プロジェクトは「不登校問題改善および学校適応促進のための学校教育支援事業」(平成17～19年度 代表:福岡教育大学 小泉令三教授), 「対人援助職の実践力養成プロセスの分析とバーンアウト予防の学際的研究」(平成24～26年度 科学研究費補助金交付 基盤B 代表:九州大学 増田健太郎教授), 「年齢構成の急変に対応する新しい教員研修プログラムの開発と教員養成科目の開設—教育委員会と大学の連携・協力による現職教員研修と教員養成の高度化—」(平成25～27年度 代表:福岡教育大学 大坪靖直教授)などです。

これらの研究プロジェクトから言えることとして、次のようなことがあります。

仕事熱心な教師ほど労働時間が長くなり、バーンアウトするリスクが高まる可能性があります。しかし、多くの教師が、教師としての実践力は仕事を通じて獲得されていくと認識しています。教師に求められる実践力は教員養成課程においてのみ獲得されるものではなく、教師になってからも学び続けることが必要だということになります。バーンアウトの予防と学び続ける教師であることの両立を目指すには、ある程度、効率的に学ぶ機会があることが求められると言えるでしょう。

教育相談・生徒指導領域で取り扱うテーマは多岐にわたるため、多くの学問領域で得られた知見を、いかに学校場で活用していくか、ということも課題だと考えています。

予防的関わりと子どもの自己指導力を育てるという観点から学校で活用しやすいよう研修教材を開発するような、「橋渡し」ができればと思っています。それらを更新講習や認定講習を通じて還元できれば幸いです。

成果の応用可能性（私の活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

職員研修会や事例検討会で、先生方と一緒に児童生徒への関わりについて、考えていくことができます。事例を発表される先生が、明日からの教育実践に意欲を持って取り組んでもらえるような機会を提供できればと考えています。また、教育相談・生徒指導領域のテーマで研修会を行う際の講師を務めることができます。

本学教育学研究科附属心理教育相談室では、児童生徒や保護者の面接、先生方のコンサルテーションを行っています。コンサルテーションとは、異なる専門家同士と一緒に課題について考え、話し合うことです。学校では毎日が慌ただしく過ぎていきがちですが、児童生徒への関わりについて、振り返る時間を持ち、うまくいっている関わりと、うまくいっていない関わりを整理し、必要に応じて軌道修正するような機会を持つことは、教師が一人で問題を抱え込み、バーンアウトすることを防ぐ観点からも意味があると考えられます。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- ・教育職員免許法更新講習 必修講習「教育の最新事情」講師
- ・教育職員免許法認定講習「心理学を活かした生徒指導」講師
- ・北九州市立教育センター教師力向上研修「自己指導力を育てる生徒指導」講師